### 令和 4 年度第 3 回和光市史平成版編集委員会議事録

実施日:令和4年9月21日(水)

13:00~15:00

場所	Zoom 会議	出席者	編集委員:宮瀧先生、佐々木先生、磯、黒沢 和光市(事務局):亀井課長、山本課長補佐、中岡様、石田様 ぎょうせい:亀山		
議題	・「和光市の平成をたどる」についての各 委員の意見及び事務局対応案について ・今後のスケジュールについて			配付物	各委員からの意見聴収の資料一式 (Zoom 会議に伴い、事前に和光市 より、送付済み)

# 各編さん委員からの意見について協議

今回も前回同様、各編さん委員からの意見の内容を踏まえ、その対応案について事務局石田様からご説明いただいた。各委員から多くの意見が寄せられたことを踏まえ、事務局対応案の中から特に協議すべき必要があるものをピックアップしながら、宮瀧先生、佐々木先生、編集委員より質問・確認、協議を行った。

## <「和光市の平成をたどる」再校ゲラについて>

- ・鈴木委員からの、173ページの平成 13 年は 21 世紀の始まりの年なのでタイトル内に 21 世紀を迎えたことを大きく記載すべきであるという意見に対し、黒沢より 134ページの「1 昭和の終わりから平成の時代へ 昭和 61 年~平成 12 年」「2 21 世紀を迎えて 平成 13 年~22 年」「3 平成の終焉と令和のはじまり 平成 23 年~令和 2 年」を、135ページの大見出し「平成史への入口 キーワードで振り返る平成史」とレイアウト感を統一しつつ該当ページの右側に大きく記載することを提案し、宮瀧先生、佐々木先生、事務局の同意を得た。
- ・佐々木好評委員からの、179ページ「りょうが」の「が」の字が違うという指摘があり、これに対しては原稿のまま「上回った」と優しい表現にしたいという事務局案について、佐々木先生より「上回る」という言葉が続いたため「凌駕」としたとの説明があった。宮瀧先生からも同じ言葉が続かないようにしたほうが良いので、例えば「反対票を超えた」ではいかがかとの提案があり、礒さんのほうでも何か適切な言葉があれば検討してほしい旨依頼された。
- ・田中俊委員からの、191ページ「新倉高齢者福祉センター開館」を「新倉高齢者福祉センターオープン」に変更した方が良いという意見に関連して、事務局からゲラ全体(市史全体)にわたってオープン、開館、開設、スタート、開始などの表記の混在について統一した方が良いのではとの提案があった。これに対して出席者が議論した結果、読者に説明がつくように市広報紙などに準拠した表記のルールを定め、統一できるものは統一していく方向で合意した(同じ物差しで合わせていく、例えば、学校→開校、幼稚園→開園など基準を決めていく。なお、商業施設などは「オープン」のほうがなじみやすい、また、磯さんからは本文の記述の流れの中であえて表記を変えている場合もあるとのことで、一律に統一できないので注意が必要)。ぎょうせい→事務局→礒さんの順でチェックし適切な表記としていくことを確認した。
- ・牧田委員からの、135ページ下段後ろから6行目「非自民党政権」の箇所は「詳細に説明」という意見に、「非自民党政権が誕生し、自民党による一党体制が終焉。」と修正したい事務局案について、宮瀧先生より正確な記載が肝要との意見があり、佐々木先生に適切な表記をご教示いただくことで了解を得た。
- ・牧田委員からの、160ページ下段後ろから3行目に関する意見に対し、「こうした国の施設が市内に立地することにより、和光市のブランド力向上に貢献し、施設で働く知識人に講師となってもらうことにより、市民の知的向上に寄与してもらっている。」と修正したい事務局案について、宮瀧先生より何の「講師」なのかを補足することと「知的向上」という言葉への違和感が示され、事務局が「市民大学などの講師」と修正案を示し了承され、また、「知的向上」に代わる言葉としては「学習環境の向上に」との案が

示され、事務局に一任された。

- ・牧田委員からの、173ページ上段9行目に関する意見に対し、「テロの実行犯と断定したが、その後、テロに関して書籍やインターネットなどで論説が入り乱れる状況となった。」と修正したい事務局案について、宮瀧先生より「論説」ではなく「諸説」に改めるよう指摘があり修正することとした。
- ・210ページ「日生オアシス和光」のところの、安倍首相に係る本文と写真の掲載の是非について出席者が議論し、削除することで合意した。
- ・佐々木先生より提案された、225ページ特論①の平成の市町村合併に関する加筆について出席者が議論 し、磯さんから「和光市の歴史(かこ)をふりかえる」で加筆しているとの説明があり、結論としては参 照ページを記載することで合意した。
- ・宮瀧先生より、固有名詞をはじめ全編にわたる「ルビ振り」はいつ行うのかとの照会があり、最終段階 で行うことで合意した。
- ・135ページ本文 1 行目「逝去」と 145ページの本文 3 行目「崩御」の表記統一について事務局から照会があり、「死去」とすることを確認した。
- ・181 ページ下段 10 行目「しかし」以下を、「しかし、市民参加の手法は多岐にわたるため実施する事業により適切な手法の詳細な検討が必要となる、若い人の参加が少ない、参加者が一部の市民のみにとどまるなどの課題も明らかになってきた。」と修正したい事務局案に対し、宮瀧先生より「実施する事業により適切な手法の詳細な検討が必要となる」の表記について再考が求められ、事務局に一任された。

#### <「別編 遺跡の街-和光市」について>

・黒沢より、6頁に縮小された「区画整理事業により明らかになった遺跡」と「午王山遺跡」を、「平成をたどる」の特論①②のように「現在(いま)をうつしだす」の末尾に「特論①区画整理事業により明らかになった遺跡」「特論②午王山遺跡」としてはいかがかと提案した。

佐々木先生からは改めて「本編」のスリム化を求める意見が出され、宮瀧先生からは「特論」という言葉は適切ではないので別の言葉が良いとの意見が出されたが、結論には至らず、この部分の修正ゲラを確認しながら、次回議論することになった。

### <今後のスケジュールについて>

・今後の会議予定

令和4年10月19日(水)午後1時~午後3時まで(Zoom 会議)

議題-「和光市の現在をうつしだす」「エピローグ」「プロローグ」再校ゲラについて

[以上]